



ミニかわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

〒124-0012

東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル

TEL : 03-3694-6091 FAX : 03-3691-6680

2020年 M&A 前年をわずかに下回る 849 件、取引金額 11 兆円超

2020年のM&A件数(適時開示ベース)は前年比4件減の849件となりました。2013年以来7年ぶりに前年を下回ったものの、年間件数は過去10年で最多だった2019年に次ぐ高水準です。新型コロナウイルス感染拡大の影響が拡大する状況でも堅調さが目立った結果といえます。取引金額も11兆559億円と前年を3兆円近く上回りましたが、ソフトバンクグループ(SBG)、セブン&アイ・ホールディングスの2大案件(計6.4兆円)で全体の6割を占めているため、全体的には案件規模の小型化が否めません。

この結果は、上場企業に義務づけられた適時開示情報をもとに経営権が異動するM&A(グループ内再編は除く)について、M&A仲介のストライク(M&A Online 編集部)の集計によるものです。

2020年のM&A市場を振り返ると、1~3月は前年を上回るハイペースで滑り出しましたが、4月以降は新型コロナの影響が次第に広がり、外国との往来が事実上途絶えたことなどで国境を越える海外案件が低調に転じ、「国内回帰」の構図が浮き彫りになりました。

実際、海外案件は147件と前年の196件から50件近く減少し、全M&Aに占める比率も17%と前年の23%から6ポイント低下しています。海外案件の落ち込みを、国内案件の増加で補い、最終的な件数は年間849件と前年にほぼ並びました。

取引金額が年間10兆円の大台に乗るのは2018年(13兆7836億円)、2016年(12兆1407億円)に続く3度目ですが、前述の通り、SBGによる英半導体設計大手アームの4.2兆円売却、セブン&アイによる米コンビニ3位スピードウェイの2.2兆円買収という巨大案件があったのが主因です。日本企業が手がけるM&Aの金額ランキングとして、今回のSBGの案件は歴代2位、セブン&アイは5位にあたります。

SBG、セブン&アイの案件を含めて取引金額100億円超の件数をみると、2020年は51件で、前年より17件減っており、これは1件当たりの取引が高額になることの多い海外案件が減ったことが響いたとみられます。